
はれんちマンション(結)

七夜十歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はれんちマンション（結）

【ZPDF】

Z7236C

【作者名】

七夜十歌

【あらすじ】

14歳の中学生、雨月ハレルヤの前にいきなり現れた父。いったい何が起こるのか？そしてハレに未来はあるのか 第15回『起承転結』小説ついに完結！どんなエンドでも文句は受け付けません（笑）

(前書き)

第15回『起承転結』 小説の『結』です。
今まで付き合つて頂いた皆様、本当にありがとうございます。
この小説は

叶愛夢さん（起） 阿厨季夜さん（承一） 御谷朋さん（承二）
春野天使さん（転一） 田朱さん（転二） 自分、七夜十歌（結）
へと繋がつてきました。皆様に最大の敬意を表します。

「これが父の、けじめの付け方だ……」

と言いながら、ビニから出したのか黒く大きなトランクを漁る。

「これだあ！」

無駄に熱く叫び続ける父親。いや、てかあなた女でしょ？ そんなことしちゃいけませんよ？

取り出した一枚の紙を、ハレに突きつけるように見せる。

『婚姻届』

「あ、間違えた」

「それ以前に手順を間違ってるよ！ 先に離婚しきよ再婚する前に！」

そんなシャウトを一切無視。また漁り始める父さん。

「ハレ君も大変だね～」「あなたがいなければだいぶ変わりますよ

静香さん」

てかスルメ！ なんかこの辺スルメくさー 全部食べちゃって……

今度はポテチ！ マジで止めなきやウチの食料なくなるよこれ！

「ああ、これだこれ」

ああ、このタイミングですか父上。あなたはこの状況が見えないのですか？ 兵糧責めですか？

そして今度こそと差し出された一枚の紙。そこにには……

「…………？」

よくわからなかつた。が、それでも一つだけわかったことがある。

「これ、マンション関係の書類……だよね」

そこにはこのマンションの名前、そして母さんの名前に押印がしつかりと載っていた。

「うむ。それはな、このマンションの管理人……というより、所有

権を表すものだな

「はあ……はあ！」

んなもんなんで持つてんだよー。あの母か？ あのバカ母が送ったのか？

「いや、落ちてた」

「有り得ねえええ！」

落ちてるか普通でか落とすなよー。 それ以前に持ち出すなよー。

何がしたかつたんだ一体！

「落ち着け、ハレ」

肩に手をポン、とおいて諭すようにじっと見つめる父さん。

「僕はあんたの落ち着きっぷりがとても信じられませんよ」

「父さんに向かって『あんた』はないだろ？ー」

「そこでキレンのー？」

いきなりキレた父さんを、勅使河原さんと一緒になんとかなだめる。「すまない……いいかハレ、父さんはいずれ結婚して働かなければならぬわけだよ」

「てか結婚するきまんまんだったじゃないでですか……」

「それまでの程度資金がいるし、何より貯金だけでは少々きびしくてな。そこで！」

ぐつと両肩を掴んで熱く語る父さん。てか地味に痛いです。

「このマンションは私が継ぐ（うじやないか！）

「どうぞ自由にー」

思わず叫んでしまった。確かに今まで散々苦労してきたから、愛着みたいなものもある。だけど、母さんよりはしっかり仕事してくれるだろうし、いつまでも自分が代理をしているわけにもいかないで助かる話だ。

「やつと……やつと自由が手に入つた！」

今までずっと家事に仕事にと、遊ぶ時間なんて無かった。そして遂に自分の時間を持つことができた。

「そつかハレ、そんなにうれしいか

「当たり前だよ、もう縛るものは何もないんだから…」

まさに有頂天。でも、住人の皆さんの顔はどことなく暗かった。

「そうだな、確かに何にも縛られない。じゃ、そういうことで

といつて父さんが取り出したのは大きめのリュックサック。

「……何これ」

「一週間生きるための装備。財布と食料と着替え」

「え？ 何で？ 確かに生きられますよ、でも必要ありませんよね？」

「ハレ君、がんばってね」

「……いつか帰ってきて、楽しい話でも聞かせてくれ」

「何このシリアルスムードー！ 僕出てくの？ 何で？ 僕はあなたの

息子ですよ父さん！」

状況もよくわからずとりあえず叫ぶ。すると父さんは見たこともない笑顔できつぱつこいつ言った。

「邪魔だから」

「…………」

酷い。

酷すぎる。

いくら再婚するからってそれはないでしょ。

「大丈夫」

まるで聖母のように輝いた笑顔を放つ勅使河原さん（男だけど）が僕を見て言う。

「あなたの父さんは私が幸せにするから」

「うわあああんー」

あまりにひりい現実に、ひつたくるようにバックを取つて階段を駆け下りる。

僕はもう何も考えずに走っていた。

「…みたい、これがやり畢つなるのだらう。

飛び出してきて数分、落ち着きを取り戻したが、今更戻ることもできないので仕方なくぶらぶらと歩く。

「…………どうしよう

する事もないの、とりあえずバックの中を探つてみる。

そこには本当に『生き残る道具』が入っていた。

「サバイバルナイフ、ライターとマッチ、ランプに……メモ用紙? 着替えやサバイバーグッズの中に、父さんからのであるうメモが入つていた。

何かあるかもしれない……僅かな希望を託し、折りたたんであるメモを開く。

『家決まつたら連絡くれ』

「ちくしょおおおー！」

わかつていたのに期待した僕がバカだった！

嘆いていても仕方ないので、メモを破り捨ててとうあえず適当に歩いていた。

「しかし……」

この辺も変わったな、と思つ。何より、ビルやマンションといった

高い建築物がここ数年で一気に増えたと感づ。

「ん？」

ふと思い出し、田の前にある新しいマンションを見上げる。

昔ここに広い空き地があり、またもやった父さんと母さんとで遊んだことがあった。

唯一といつていい、家族の思い出。それが無くなってしまったようで、少し寂しくなった。

「あれ～？」

そんなシリアルスを（また）ぶつ飛ばす、脳天気な声。

「何してるのハレ？」

「あんたが何やつてんだよ！？」

そこにあるのは出ていつたバカ母だった。

「何つて、管理人？」

「聞くなよ！ てか何で、こんなところにいるんですかコンチクシヨウ」 「だつて、南に行くなつて言つたでしょ？」

「…………」

右……住んでいたマンション

左……母さんがいるマンション

正面……西

「南だ！」

「でしょ～？ 全く、いつまでたつてもハレはバカだなあ」というかありなの？ 確かにみんなあなたのこと知らないかもしれないけど、南だけど、たつた1、2キロしか離れてないよ？

「元管理人さんが実家を継がないといけないらしくてね、『管理人やつたことがあります』つていつたら頼まれたのよ」
勝手に話進めてるし。まあ本人が納得してるならいいけどね。

「だけどさ～」

……なんだろうこのいや～な感じは。今すつじく冷たい汗流れてますよ体中？

「もう何すればいいかわからなくなつて。いっぱい頼まれたんだけど、どうしようか」

「…………」

本当は無視したいんですけど、でも、周りの人迷惑はかけられないんだよね……

だから、

「すううう

「

はあああ

大きく深呼吸。

腹はくくつた。どうせ元の生活に戻るだけだ。きっと。うん。

「それで？」

「とりあえず、

「最初の仕事は？」

前に進んでみようか。

「さっすがハレ！ 話がわかるわね～」

「言つてることが前と違うんだけど

「

「『母さん』」

「これは、中學生の僕と、どうしようもない大人たちの、しきりもない日常の物語。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7236c/>

はれんちマンション(結)

2010年12月28日03時27分発行